

平成 28 年度事業計画書及び収支予算書

目次

I	総括	1
II	委員会活動計画	2
	事業推進本部	2
	人材育成事業本部	3
	技術本部	6
	ET事業本部	12
	プラグフェスト実行委員会	13
	Open EL 国際標準化委員会	13
III	支部活動報告	14
	北海道支部	14
	東北支部	14
	関東支部	15
	中部支部	15
	北陸支部	16
	近畿支部	17
	九州支部	19
IV	平成 28 年度収支予算書	20

I. 総括

我が国経済は、海外に起因する不安定要素はあるものの、政府の経済政策や日銀の金融緩和等を背景に輸出関連企業を中心に収益の改善が図られ、緩やかな景気回復が続いている。

他方、技術、ビジネス動向は組込みシステム技術を基盤とし、その延長上にあるIoT時代に突入したといえよう。

このような環境下、設立30周年の節目を迎える当協会は、組込みシステム技術の高度化事業を中心据え、関連するIoT技術、サービスの団体との連携により我が国の産業振興に寄与する所存である。

上記を踏まえ、平成28年度の重点推進事業を下記の8項目とし、その事業推進に予算措置を含めた強化体制でのぞむこととする。

平成28年度重点事業項目

1. 組込みシステム技術の調査研究活動の推進と研究成果の情報発信
2. 展示会事業の強化・拡充
 - 「IoT 総合技術展」との同時開催による一層の拡大と地方展開
 - ET-West 併設展示会 IoT-West の立ち上げ
3. 人材育成事業の活性化推進
 - 組込みソフトウェア技術者試験「ETEC」クラス1試験の販促活動強化
 - 及びクラス2試験の学生市場等への普及拡大
 - ET ロボコンによる全国レベルでの初級技術者教育・育成
4. 協業事業の強化推進
 - 協業マッチング、ビジネス交流会の継続、定着化
 - 地方支部への展開、ならびにIoT市場を目指す新たなスキームの検討
5. 国際化推進
 - 複数の海外関連団体との連携強化と共催イベントの企画、実施
6. 政府並びに関連団体との情報交換及び連携事業推進
 - 政策、業界とのベクトルを合わせた活動の推進
7. 会員の増強
 - 入会キャンペーンの継続により会員増強活動推進
 - ET 展、ETEC、協業イベント、ET ロボコン等ならびに支部活動を通じた入会促進
8. 設立30周年記念事業
 - 記念行事(記念品等)の実施、機関誌「設立30周年記念号」の発行
 - ET30回開催記念企画の実施、HPコンテンツ動画等リニューアル

II. 委員会活動計画

事業推進本部

広報委員会

協会設立 30 周年の記念年として、更に積極的な広報活動を展開する。

機関誌では、技術・業界動向、協会活動状況などを掲載し、会員のみならず関連機関、教育機関等に向け情報提供するとともに、ET・IoT 展、セミナー・イベント時に配布するなど協会広報に活用する。また、30 周年特別号を企画・編集・発行し記念誌として位置付け、関係者に配布する。

キャラクター「クミコ・ミライ」を活用し、協会及び業界の周知と併せ、学生を含む他分野に向けても分り易く伝えていく。

1. 協会機関誌の定期発行

協会活動等広報、30 周年記念号の企画・編集・発行

2. 協会広報

キャラクター活用による協会活動アピール

ET 展等 JASA イベントでのグッズ配布

画像による業界周知活用

3. 協会広報

プレス活用による広報

協会案内・パンフ等(記念号版)

4. 30 周年記念 WEB ページ(動画等)の制作

協会活動等広報

国際委員会

1. 委員会の開催

2 ヶ月毎に委員会を開催し、事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行うと共に委員会としての課題を探るため、識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

2. JASA 会員企業向けの海外視察を企画・実施

会員企業に海外を実感していただくため、ニーズの高い国への視察ツアーを実施する。海外視察により現地を体感する、海外協会との交流を進める。

3. 海外協会との交流や MOU 締結などの実施

海外協会の受け入れや、MOU 締結などを進めるために、海外協会への委員派遣を実施する。

4. 「JASA グローバルフォーラム」を計画・推進

JASA 会員をはじめとした企業に対し、海外の動向及び、国際化推進に向けたセミナーを実施する。ET2016 開催の機会を利用した「JASA グローバルフォーラム」を計画・推進する。

5. 「国際だより」の発信

会員企業に対する情報提供と JASA 外部に対する情宣活動への貢献のため、JASA ホームページ及び、機関紙 Bulletin JASA に「JASA 国際だより」を設け、国際委員会から積極的に情報発信を行っていく。

協業推進委員会

支部や他団体と共に、各地で協業マッチングイベントを開催し、会員企業の事業発展を支援する。IoT/M2M の現状とフィジビリティスタディを行い、新たな協業スキームを検討する。

1. 定例会議

- 隔月で開催。イベントの企画・管理、情報交換
- ・IoT ビジネス研究会のイベント企画
 - ・CSAJ 合同開催アライアンスビジネス交流会の運営
 - ・SNS を活用したネット上のビジネスマッチング運営

2. 【IoT/M2M ビジネス研究会】IIOT 意見交換会

IoT 共通プラットフォーム国際規格の調査、アライアンスの模索

3. 北海道地区イベント

北海道地区での JASA のプレゼンス向上
北海道地区の企業(経営層)をターゲットとした、セミナーを開催

4. 関東地区イベント

関東地区における、ビジネスマッチングイベント
第一四半期に関東支部と協議の上、決定する

5. 【九州支部共催】九州交流セミナー

九州地区における、ビジネス交流イベント
JASA のプレゼンス向上、地元企業、地域団体等との交流・関係強化
九州支部の会員企業、その他地域企業を対象に、九州でニーズのある、技術解説・事業運営等のセミナーを運営し、JASA(九州支部)と地域の交流を図る。
* 経費の一部を九州支部も負担する。

6. 他団体とのビジネスマッチング

JASA 会員の商材のビジネスマッチング
コンピュータソフトウェア協会と主に IT 商材のビジネスマッチングを行う。

人材育成事業本部

ETEC 企画委員会

- ・クラス 2(SW2)の再設計
- ・クラス 1(SW1)の認知拡大とクラス 2(SW2)受験拡大への相乗効果を図る。
- ・法人市場:企業内の人財育成管理ツールとしての ETEC 活用方法を周知浸透させる。
- ・学生市場:就職活動のツールとしての浸透を図る。

1. ETEC 企画会議運営

隔月で委員会を開催し、試験問題作成 WG は、クラス 1・クラス 2 ともに 3 回を予定する。

2. ETEC-SW1 問題作成(WG)

平成 29 年度配信分の試験問題作成
新規試験として組込みソフトウェア技術者試験クラス 1(SW1)の運用に向け、第 1 四半期に試験問題の精査の上、第 2 四半期より運用を開始する。

3. ETEC-SW1 試験運用
通年の安定運用とコスト削減
ETEC-SW1 は、Pearson VUE 社に試験実施を委託し、ACSP 社に証明書発行発送業務を委託している。2016 年度は、年間 150 試験を見積もる。
4. ETEC-SW2 問題作成(WG)
試験構造を見直し、時代に合った試験にリビルドする。
ETEC-SW2 は運用開始後 8 年を経過し、約 1 万試験の実績を築いた。結果データを統計分析したうえで、出題分野・レベルを時代背景に沿って再設定する。
5. ETEC-SW2 試験運用
通年の安定運用とコスト削減
ETEC-SW2 は、Pearson VUE 社に試験実施を委託し、ACSP 社に証明書発行発送業務を委託している。
2016 年度は、年間 1,100 試験を見積もる。
6. ETEC-SW2 販促活動 1
潜在需要の顕在化
個人大口、企業大口、JASA 会員、学生の市場に対する販売促進として優待価格を設定し、受験料を減額する。
7. ETEC-SW2 販促活動 2 学生市場
求職者市場の受験促進
学校法人に対して、学割受験バウチャーと職業紹介サービスの周知徹底
8. ETEC-SW1/SW2 広告宣伝(ET/ETWest)
組込み業界での認知度向上と利用勧奨
ETWest2016(7 月)、ET2016(11 月)の機会を捉え、出展者ならびに来場者に ETEC を認知してもらうため、ブースを出展し、説明ならびに模擬受験を行う。

研修委員会

- 教育機関との連携を強化する施策を展開する。
- 業界への就職関心を高める。
 - 実践型教育を推奨する。
1. 委員会(会議)
およそ隔月(年 6 回)開催する。
 2. BulletinJASA 等 教育機関へ発送
教育機関への状況提供・啓蒙
BulletinJASA、展示会イベント等の情報を教育機関へ配達
 3. 業界認知活動業界研究セミナー
教育機関ならびに新卒求職者市場に組込みシステム開発業の認知を拡大し、会員の求人を支援する。
業界研究セミナーを ETWest2016 および ET2016 で開催する。
「スキルレベル調査結果」「ETEC 活用」、地域会員企業による業界の解説、事業紹介、人材育成を紹介する。

4. 学校講師向けワークショップ

実践的な教育を推進するため、学校講師の現場経験不足を補完し、実践教育を行うためのトレーニングが教育機関より求められている。

夏季休暇期間を利用した C 言語プログラミングのワークショップを行う。

5. 企業が求める新卒人材調査

企業が求める新卒人材のスキルレベル、人物像を詳細に調査し、報告書を作成の上、教育機関に情報提供し、実情に合った教育を推奨する。

6. KiT/JAIST 产学連携 評価項目検討会

金沢工業大学(KIT)と北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)との产学連携事業として、学生に対する教育評価システムを構築する(年 3 回)

7. 学校・学生向け広告宣伝活動

教育機関向けのイベントの周知徹底と斡旋を行う。

会員企業の求人情報の周知支援を行う。

① イベントの周知徹底・参加斡旋。学校法人向けの営業支援機関を媒介として展開。

② 会員企業の求人情報。主に専門学校を中心とした、学校・学生向け就職活動支援サイトを介して紹介する。

ET ロボコン実行委員会

組込みソフトウェア技術者、特に若年・初級者の人材育成の一環として、ET ロボコン 2016 を開催する。各地区大会と、地区代表によるチャンピオンシップ大会における協議会、それに付随する技術教育・モデリングワークショップ等を開催する。

ET ロボコンは若年層の人材育成に最適なツールであり、その支援策として、JASA 会員のエントリー、自己研鑽を促し、また、地区運営の支援を行う。

1. 地区大会運営

地方地区の研修ならびに地区大会(モデル審査・競技)の実施運営

2. チャンピオンシップ大会運営

各地区代表チームによる、チャンピオンシップ大会(協議・ワークショップ)の実施運営

3. 実行委員会(会議開催)

実行委員会開催の支援として、JASA 本部事務局の会議室を貸し出す。

4. 地区のエントリー・運営支援

エントリー時期(春)と地区大会(9 月)に、エントリーが少ない地区のエントリー・運営支援を行う。

5. 地区大会支援 2 (地区教育指導の支援)

エントリーが少ない地区に対して、学校・企業の参画を増やすため、学校の指導者層、企業の初期参加者の教育指導を強化する。

キャリア活用委員会

今後数年後には組込みシステム業も高齢化対応が迫られる。高齢者の再雇用・雇用延長対策を中心、企業内の人材開発・管理の支援を目的とした、施策を展開する。

初年度平成 28 年度は、各施策の市場調査、スタディ、運営準備期間とする。

検討会議

下記 A～C の 3 つの事業化を検討する。

検討会議の 6 回開催(隔月)を予定する。

現地調査を 1 回予定する。

A.啓蒙セミナー(被雇用者向け)

50 代を高齢準備期間として、啓蒙セミナーの運営

1 年目:人材開発系セミナーの企画

2～3 年目:セミナー運営を重ねながら、セミナーノウハウの精査

3 年目:事業化の検討

B.新たな職域開拓(雇用者向け)

高齢者が活用できる新規職域の検討

企業経営人向けに職域開拓の啓蒙

1 年目:想定できる職域の洗い出し、iCD の研究

2～3 年目:想定された職域の市場検証、企業向けの iCD 導入セミナーの開催

C.人材マッチング

企業 vs 個人:人材紹介

企業 vs 企業:ヒューマンリソースのマッチング

1 年目:マッチングパターン・マッチング手法の検討

2～3 年目:マッチング事業運営と事業化の検討

技術本部

1. 技術本部会議

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。(隔月開催予定)

2. 成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。

3. 技術本部セミナー

ET2016 にて、年度の中間成果を中心に、オープンセミナーを開催する。

4. ET 展 JASA ブースでの活動

ポスターの展示やセミナー、アンケート調査を行う。

安全性向上委員会

1. 機能安全、情報セキュリティ、生活支援ロボットの安全性に関して、技術動向の調査・研究を行う。テーマ別に 3WG に分かれて、タイムリーな活動を目指す。

2. SSQ(Safty, Security, Quality)の課題・あるべき姿をメンバーで討議・研究していく。

3. 大学、研究機構、IPAなど外部組織・団体との連携を積極的に推進する。

4. SSQ をコア技術として、オープンイノベーションの可能性を探る。

……機会を活かすために委員会の活動体制も柔軟に見直す。

①委員会活動

年度計画の策定、推進、討議。対外組織との連携を企画する。

- ・定例会(年 10 回程度)を開催し、各WGの活動報告から情報共有、意見交換を行い、SSQに関する技術力の向上を図る。
- ・IPAその他の技術動向のウォッチ、相互紹介を進めビジネス機会の提供を図る。
- ・テーマ別に 3WGに分かれて調査・研究の深堀を行う。

②安全仕様化WG(SSQ-WG)

- ・SSQの課題検討、特に上流工程の課題を検討する。
- ・IPA障害原因診断WGと連携し化学プラントモデル、ロボットモデルの要求仕様分析を行う。
- ・ロボット安全研究会と連携し、MINAMOを題材に要求仕様分析を行う要求の意図の比較解析も試みる。
- ・STAMPの調査、応用の課題検討を進める。
- ・会合は委員会などと同日で進める。

③ロボット安全研究会(RDSS-WG)

- ・生活支援ロボットの安全規格に関するアドバイザーを目指す。
- ・昨年に輪講した ISO13482 の要約版作成。
- ・ハザード分析(ISO13482 ベース)の簡易ツール開発。
- ・SSQ-WG と兼本先生をアドバイザーに STAMP 勉強会を開催する。
- ・首都大学東京の MINAMO を題材に STAMP と FTA を試みる。
- ・会合は、首都大学東京武居先生のスケジュールを調整しつつ年 10 回程度で計画する。

④情報セキュリティ研究会(JESEC-WG)

- ・情報セキュリティへの関心の高まりを捉え、ビジネスチャンスを掴む
- ・東京オリンピックを睨んだ政府と東京都の施策のウォッチ
- ・組織対策①に着眼した調査・研究と啓発を行う。NTTAT と連携。
(CMSiS の活用、非 IT 企業向け簡易診断手法の開発、T4U 連携)
- ・セキュリティ設計②に着眼した調査・研究を行う。B3C、アイシン AW 連携
- ・①、②は、分科会形式で、主査を個別に任命し会合は同日実施。対外活動は個別に行う。
- ・会合は、都立産技研の参加も視野に年 10 回程度で計画する。

⑤外部発表

委員会活動をアピールする。

(1)技術本部成果発表会(5月) :JASA 会員向け報告

(2)ET2016 技術本部セミナー(11月) :一般向け啓発

(3)地域交流(出張)

⑥研修&交流

外部から講師を招き委員会のレベルアップと交流を促進する。

本委員会に関連するホットな話題について外部から講師を招聘し最新技術情報を収集するとともに外部との交流の中からオープンイノベーションの機会を増やしていく。

⑦合宿

活動内容の集中討議を行うとともに委員間交流を図る。

・6 または 9 月に計画。昨年に続き、IPA との合同討議も計画する。

⑧外部連携

外部組織との連携をセミナーWG と協力して推進する。

- ・都立産技研と連携し、JASA 会員企業のアシスト、顧客企業開拓を進める。
- ・長岡技術科学大学と連携しロボット関連の技術深耕と国プロに関するビジネス機会を探る。

CMSiS

CMSiS 普及啓発ならびに宣伝活動を推進する。特に組織のセキュリティに関する商品を企画・販売する民間企業との協業を深めて、普及活動の柱とする。

1. 各種展示会・商品説明会への出展

組織のセキュリティに関心の高い企業向けに普及活動を行う

小規模であっても情報セキュリティに具体的に結びつきのある展示会・商品説明会をターゲットにする。

2. セミナー開催

CMSiS 普及のための合同セミナー

セキュリティ関連企業との合同セミナー

3. ヒアリング

潜在顧客にヒアリングを実施

京阪地区で 2 件

4. 保守

ヒアリング等のフィードバック作業

チェックシートなどの改版作業

5. 認証料金

認定書発行料

2 社の発行を予定

技術高度化委員会

OSS 活用 WG

OSS 活用

1. オープンソース・ソフトウェア(OSS)の普及活動、OSS ライセンスの啓蒙活動

2. ロボット用 OSS、特に、OpenEL, OpenRTM(日本の産総研発のロボット・ミドルウェア)の普及活動

①WG 定例会議

活動計画、進捗状況の確認

毎月、年 12 回の開催。

②WG 勉強会

ゲスト・スピーカを招き、最新の知見を学ぶ

スピーカーを都内、または遠方より招く。遠方の方は、年に、最大 3 人程度

③外部発表

WG の活動をアピールする。

(1)技術本部成果発表会(5 月) :JASA 会員向け報告

(2)ET2016 技術本部セミナー(11 月) :一般向け啓発

④OSSC 共同セミナー

外部より講師を招き、最新の情報を、一般に知らしめるセミナーを主催し、WG の活動をアピールする。

時期は通年で、年に 3 回程度実施。

⑤広報資料作成

WG の活動をアピールする。

フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成

⑥OSS 品質検証の実験

既存 OSS の品質をどう検証すればいいかが、問題になっている。fuzz テストなどを既存 OSS に対して実施してみて、具体的に品質検証がどのように行えるかを実験する。

状態遷移設計研究会

1. 状態遷移設計の普及啓蒙活動

2. 「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」

- ・既存ソースコードから、状態遷移表を逆生成する手法の研究、ツール化。
- ・セミナー、講演会などの広報活動 他

①状態遷移設計研究会定例会議

活動計画、進捗状況の確認

・毎月、年 12 回の開催。(JASA会議室)

・合宿検討会の実施(1 回)

②enPIT/emb への参画、共同研究費

ツール化の产学連携推進

- ・名古屋大学 大学院情報科学研究科の enPIT/emb にて、2015 年度にツール化したプロトタイプを検証し、ブラッシュアップする。
- ・ツールにて、サンプル検証範囲を拡充しする。
- ・言語対応の拡充を検討する。

③enPIT/emb の進捗状況確認、定例会議

- ・月例会議、プロジェクトの進捗確認。(名古屋大)

④ET—WEST2016 への出展

- ・セミナーの実施
- ・パネル展示、配布資料
- ・説明員の派遣(2 名)

⑤ET2016 への出展

- ・セミナーの実施
- ・パネル展示、配布資料
- ・説明員の派遣(2 名)

IoT技術研究会

クラウドやIT産業の観点で語られがちなIoTやM2Mを、エッジ側(組込み産業／製造業)の観点から、その構成／サービス／拡張性／検証性／ツール化などを検討し、再定義あるいは新規にガイドラインを策定し、情報発信する。

そのために、有識者を招いた勉強会や企業の事例をベースにした「白熱教室」を開催する。

H28 年度は、サブテーマを設定し、WG に分割して活動を推進する。

①ビジネス環境WG②センサー&データWG③エモーション駆動システムWG④分散型モデルベース開発WG

①IoT技術研究会定例会議

活動計画、進捗状況の確認

・年6回程度の開催。(JASA会議室)他

・有識者を招いた講演&勉強会。

・各種IoT団体との連携。

・各WGの活動状況、進捗の確認、情報交換。

②各WGの定例会議

ワークショップ形式の検討会

・年6回程度の開催。(JASA会議室)他

・WGテーマに応じ学識者の顧問依頼

③ET-WEST2016

ET-WEST2016への出展

・セミナーの実施

・パネル展示、配布資料

・説明員の派遣(2名)

④ET2016への出展

・セミナーの実施

・パネル展示、配布資料

・説明員の派遣(2名)

応用技術調査委員会

技術セミナーWG

年間10回程度の会議により、4回のセミナー、2回程度の地方開催セミナーをそれぞれ企画・運営する。

1. 広く一般に先端技術の紹介を行う

2. 地方開催セミナー

地方への組込み技術の啓蒙活動と、JASAのプレゼンス向上

協業委員会やET実行委員会と共同して地方でのセミナー企画を行う。無料開催。

3. 合宿

来年度のセミナー計画の立案

一泊二日で実施し、来年度計画及び中期的なスパンでのセミナーのあり方を討議する。

プラットフォーム研究会

委員数25名 委員会開催11回、合宿1回

ロボットのマーケット、技術動向を調査するとともに、OpenEL国際標準化委員会で策定したOpenELの改良、普及活動を行う

1. 委員会活動

アドバイザーを招き、技術動向などを検討するとともに、OpenELの進捗状況等を確認、議論しフィードバックをかける

ロボット技術に関する調査研究

2. 合宿

活動内容の集中討議を行うとともに委員間の交流を図る
TJK 箱根の森を利用する

3. 外部発表

研究会の活動をアピールする
(1)技術本部成果発表会(5月)
(2)ET West/ET2016 技術本部セミナー(7, 11月)
(3)Robomec、RSJ 学術講演会(9月)、SI2016(12月)、雑誌等

4. 国際標準化活動

OpenEL を OMG で国際標準とする
OMG 国際会議(3月)に参加し、OpenEL の標準化作業を推進する

5. 国際標準化活動

OpenEL を OMG で国際標準とする
OMG 国際会議(6,9,12月)に参加し、OpenEL の標準化作業を推進する

ハードウェア委員会

WG1)ものづくり技術者育成

・H27 テーマの継続検討～UX に着目した共創開発ものづくりの深掘り

WG2)新技術調査／研究

・今後組込みハードウェアに要求される技術要素調査と研究
・OpenEL や IoT 等、他委員会との共創

JPCA2016 出展

1. 委員会開催

事業方針を達成するためのPDCAを回す。
年 10 回を目処に全体会議を開き進捗を管理すると共に、チームに分かれて各活動テーマを進める。

2. ワークショップの開催

共創開発を体験して技術者育成の考察に加える。
講師を招いて共創開発(UX)のワークショップを開催する。

3. 回路基板の開発

実機で動作確認する。
技術調査したテーマから一つを選び、実際の基板を試作して動作させて研究する。

4. JPCA ショー出展

JPCA2016 で成果発表と委員会活動広報
委員会活動発表

ET事業本部

業界を牽引する協会主催イベントとして、組込み技術&IoT 技術の総合展を企画・開催する。

また、地方展開を進め、技術普及高度化と地域産業振興、併せて活動周知による事業活性化と会員増強に繋げる。

ET・IoT Technology では、技術・市場動向を見据え、ビジネスに繋がる情報等を発信していく。IoT 展との同時開催の下、次なる展開として、既存の組込み分野だけでなく、エンタープライズ、IT、SI、流通等様々な産業分野に向けたアプローチ、マーケティング、プロモーション戦略により新たな事業展開を進める。また、30 回記念事業として、次の展開に繋がる記念イベントを実施する。

West では、更なる規模・内容の拡充を図るため、IoT 関西を新設し、新たな企画・構成で実施する。関西の特色を生かし、ものづくりにおける「IoT がわかる」実例も交えた展示、センサー・アクチュエータ、無線技術等の判りやすい企画展示等にも取り組み事業展開を進める。

1. 30 周年記念 ET30 回記念

設立 30 周年と ET30 回開催記念
記念イベントの企画・運営
記念ロゴ、記念品制作

2. ET・IoT Technology 開催

ET・IoT 総合技術展として、関連技術の普及高度化、ビジネス機会拡大と JASA 活動周知
ET 及び IoT 展示会の実施及びカンファレンス企画構築
戦略的展開と運営体制強化
(新規分野へのアプローチ、マーケティング、プロモーション戦略)

3. ET West IoT West 新設

関西における ET/IoT 総合技術展として、技術普及高度化と産業振興を図る
IoT 関西新設による企画及びカンファレンス構築
新分野・企業層取り込みのための体制強化、プロモーション等

4. 地方展開

技術普及啓発・高度化と地域産業振興
JASA プrezens 向上と会員増強
支部との共催によるイベント企画・実施
セミナーWG、地域団体との連携による併催セミナー実施

5. 海外展開

海外展開及び団体連携等によるイベント拡充、プロモーション強化
台湾 ET・IoT セミナー開催
Computex 出展・調査視察及び情報交流会の実施

プラグフェスト実行委員会

共通のインターフェース規格を持つ機器間の相互運用性を検証するイベントで、H28年度も、春季と秋季の実施予定。

1. 日本プラグフェスト 春季
HDMI 規格にて接続試験を実施
2. 日本プラグフェスト秋季
HDMI 規格にて接続試験を実施
3. WG ミーティング
実施計画策定のミーティングを実施

Open EL 国際標準化委員会

本年度は全体スケジュールの2年目にあたり、OpenELの仕様策定作業を進めるとともにOMGでHAL4RTの国際標準仕様書の発行を目指す。また、ISO TC299/WG6が策定中の国際規格のワーキングドラフト文書の発行を目指す。

- ① ロボット向け組込みソフトウェア OpenEL の仕様案の作成
- ② ロボット向け組込みソフトウェア OpenEL に関する国際規格案の提案
- ③ ロボット向け組込みソフトウェア OpenEL の Platform Independent Model 仕様に関する調査研究
- ④ ロボット向け組込みソフトウェア OpenEL の Platform Specific Model 仕様に関する調査研究

III. 支部活動計画

北海道支部

本部との連携によるセミナー等を開催し JASA の活動を紹介し、認知度の向上および会員増強に努める。

1. 交流セミナー

北海道内における、JASA のプレゼンス向上と、地域関連団体ならびに、地元企業との協力体制の強化を図る。

東北支部

東北支部では、地域産業活性化へ貢献することを目指し、会員間及び東北地域の他団体・教育・研究機関との交流・協業をさらに深めていくと共に、各種イベントを通じて東北地域への組込みシステム技術の普及・発展に向けた事業活動を積極的に推進していく。

また、本部各組織との交流を促進し会員企業間のビジネスマッチングに寄与する。
上記活動から、東北支部会員の増加につなげる。

1. 支部会議

東北支部本年度事業の進捗状況確認、及び次年度事業の計画を検討する。

年 5 回の開催 5 月(仙台)、8 月(山形)、10 月(福島、郡山、いわき)、12 月(盛岡)、2 月(仙台)、内 3 回はオープンセミナー同時開催

2. オープンセミナー

組込みシステム関連業界・技術動向の普及展開についてセミナー、及び懇親会を開催し東北地域の企業、団体、行政等との交流促進共に、組込みシステム技術協会の知名度向上を図り東北支部会員の加入促進につなげる。3 回開催、内 1 回は本部セミナーWG と連携

3. 人材育成セミナー

組込みシステム業界のヒューマンスキルの育成

各県教育機関と連携し会員各社に展開する。(事務局対応)

4. 国内見学会

国内の研究施設・工場などを視察し、最新動向を知ることで参加者の事業発展に貢献する。27 名以上の参加者が必須

5. ET2016 東北地域支援

ET2016 東北地域出展企業の活動支援

ET2016「TOHOKU パビリオン」に出展する東北地域企業の出展支援、及び「TOHOKU パビリオン」の運営活動を支援する。

6. ET ロボコン東北大会支援

ET ロボコン東北大会の企画運営を支援し、東北地区大会の更なる

活性化を図る。組込みシステム技術協会東北支部の参加者(学生等若年層)への知名度向上による採用支援

7. 東北支部会員ビジネスマッチング・関連団体連携支援

会員企業への域内外でのビジネス支援

域内外でのビジネスマッチング活動、システム関係団体と連携し会員企業への事業活動に貢献する。(事務局対応)

関東支部

『ビジネスを創る/育てる公器となる』をビジョンに、以下の活動に注力する。

- ①政府/自治体情報の発信
- ②会員企業のビジネス機会創出
- ③会員企業の人材育成支援

1. 企画運営 WG

支部活動の企画運営委員会の実施。

2. 支部例会(5月)

平成28年度の関東支部事業計画の発表とセミナー開催及び関東支部会員の交流会を実施する。

3. 支部例会(8月)(講演会・納涼会)

セミナー開催及び新入会員企業による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

4. 支部例会(12月)(講演会・忘年会)

次年度事業計画についての説明を実施。

セミナー開催及び、新入会員企業による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

5. 支部会議(2月)

次年度事業計画承認についての会議を実施。

セミナー開催及び、新入会員企業による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

6. フレッシャーズセミナー

新卒者のためのセミナー実施

会員企業をはじめとした組込みシステム企業を対象とした新人研修セミナー(一般教養と組込み関連)を実施する。

7. 各種セミナー

各種セミナーの実施(3回)

新事業創造、リーダーシップ、接遇など コンピタンシー向上の為のセミナーを実施する。

8. 異業種交流会

ボーリング大会、BBQ 大会等の企画を通じて会員企業、異業種間の出会いの場作りを行う。

9. 企業等見学会

組込みシステムに関する最先端技術を見学し、また、会員間の交流の場を提供する。

中部支部

産業の基幹技術でありモノづくりの根幹を荷っている組込みシステム技術も繋がる世界に視点を置いた技術開発が求められる時代になってきている。当地域の得意分野の車載関連、FA機器産業に蓄積されている技術とノウハウと IoT の時代に合った技術知見が必要となり、地元大学との連携を一層図っていく必要がある。当支部では、会員相互の交流・啓発及び、他地域との連携により、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

1. 国内外産業調査(春と秋の年2回)

- ・東南アジアの情報産業の実情とともに協業の可能性を調査するとともに中堅管理者の海外経験を積むことを目的

- ・中部地域以外の地域の産業活動状況を調査するとともに協業会議を行い、ビジネスの可能性などを調査する

2. 技術研究会

組込みシステム開発にアジャイル手法を導入する研究

平成 24 年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。組込みシステムの開発にアジャイル開発手法を適用する場合障害となる条件について技術的及び管理的観点から研究する。今年度は各社で実施した試行等を纏め、会員に有用なガイドラインをまとめるとともに、試行も増やす。

3. 技術セミナー 3回 マネージメントセミナ 1回

・組込みシステム技術の普及・啓発を図る・管理技術の啓発を図る

・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年 3 回セミナー・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る。

・管理技術向上をめざし、地元大学の先生にマネージメント技術の啓蒙を図る。

セミナー後に交流会を開催し講師や参加者とのネットワーキングを行う

4. セキュリティ勉強会、他勉強会

組込みシステムにおけるセキュリティ技術の啓蒙

その他新技術勉強会

IoT の時代、組込みシステムにもセキュリティ技術が必要となる。中部経産局と共にセミナを実施するとともに、セキュリティはどこまで対応すればよいかを地元大学の研究者を講師に招き解説をしていただき、手順等を習得する勉強会を設定する。その他新技術も実施する必要であれば次年度研究会立ち上げの足がかりとする。

5. 企業社員交流会

多數の会員企業の社員が相互に交流・親睦をはかれる唯一の機会であるボーリング大会を開催する

6. 企業訪問

中部地区の会員以外の企業や大学を訪問し、情報交換を行い、協業などの機会を作る

7. 支部会議及び支部会員企業交流会

中部支部平成 28 年度事業計画、事業予算、遂行計画について議論し、会員の参加、協力を得るようにする。キックオフを兼ねて懇親会と講演などの行事も会議後開催する。

会員企業の経営者・幹部社員が情報交換・交流を図る場として忘年会を開催する

北陸支部

本部が実施する各種事業へ積極的に参加するとともに、IT 関連団体との連携、組込み関連セミナーの開催、情報提供等を通じて会員の増強と組込み技術の普及促進を図る。

1. 支部会議

北陸支部の今期事業計画の確認。

事業計画の策定・報告、予算策定・決算報告及び 28 年度事業のスケジュール等の調整を行う。会議終了後、会員相互の情報交換及び交流会を実施する。

2. 視察研修

国内の組込みシステム関連状況を把握し、支部参加企業の技術向上を推進する。

支部会員による国内先進企業の組込みシステム技術の動向について視察研修・意見交換を行い、会員企業の技術の向上を図る。

3. 技術講演会の開催

組込み技術の普及

講師を招き技術講演会を行う。講演後、講師を交え参加者との交流会を開催する。

近畿支部

協会の活動方針である、組込みシステムの技術開発及び標準化の推進、人財育成、地域振興及び国際交流の推進、会員企業間の交流、業界活性化を推進する。平成 27 年度までの活動に加えて、平成 27 年 10 月に行った「交流祭典」は、学生に組込みシステム業界及び JASA をより広く知つていただく活動として実施し、今年度も継続していく。新規事業としては、「組込みシステム技術に関するサマーワークショップ」(SWEST)に支部として参加する。また日本プラグフェストが近畿で開催される際の「懇親会」は近畿支部が共催し、支部会員とプラグフェスト出席者との交流を行う。技術本部の「成果発表会」を近畿でも実施し、他支部会員との技術交流を深める。

1. 平成 28 年支部会議、懇親会

近畿支部の前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算を確認する。

年 1 回、支部会議を開催する。支部会議終了後は懇親会を行い、会員の交流を図る。

2. 第 1 回市場ワーキングセミナー

営業担当社員の交流、情報収集、技術啓発及び交流を図る。(会員企業間の交流)

5 月に営業担当社員を対象とし、セミナーや意見交換会を実施する。終了後は懇親会を行い、他社の社員とも交流を図る。

3. 5 月支部会議

支部事業計画に基づいた具体案を検討する。

5 月に開催し、各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。会議終了後に会員月例会を実施し、会員企業の事業内容や新製品の紹介を行う。

4. 海外視察

海外の組込みシステム技術の調査、現地の経済情勢を視察し、会員の情報収集に役立てる。
(地域振興及び国際交流の推進)

6 月に台北で開催される「Computex Taipei 2016」を視察し、現地における技術の実態調査を行う。視察費用の一部を負担し、若い技術者が海外に見聞を広めることにより、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。

5. 日本プラグフェスト懇親会

6 月に近畿で開催される日本プラグフェストの懇親会に参加し、プラグフェスト参加者と近畿支部会員の交流を図る。

6. 「組込み総合技術展 関西」(Embedded Technology West)運営協力。

「組込み総合技術展 関西」(Embedded Technology West)運営に関する事業。

7. 7 月支部会議

支部事業計画に基づいた具体案を検討する。

7 月に開催し、各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。

8. 会員の交流を図る。(会員企業間の交流)

7 月の支部会議終了後、交流懇親会を実施する。

9. 会員企業社員研修。(人財育成)

8月に行われる「組込みシステム技術に関するサマーワークショップ」(SWEST)に参加し、会員企業社員のスキルアップ、技術啓発に役立てる。

10. 支部事業計画に基づいた具体案を検討する。

9月に開催し、各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。会議終了後に近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会を実施し、局の施策についての解説、意見交換を行う。

11. 第1回総務交流フォーラム

総務・管理担当社員の人財育成。(人財育成)

各方面から講師を招聘して、討論を交えたセミナーを開催し、総務・管理担当社員のスキルアップ、情報収集に役立てる。終了後は同日に開催する「交流祭典 2016」に参加し、会員及びエンジニア志望の学生と交流を図る。

12. 第2回市場ワーキングセミナー

営業担当社員の交流、情報収集、技術啓発及び交流を図る。(会員企業間の交流)

営業担当社員を対象とし、セミナーや意見交換会を実施する。終了後は同日に開催する「交流祭典 2016」に参加し、会員及びエンジニア志望の学生と交流を図る。

13. 交流祭典

学生に組込みシステム業界及び協会をPRし、会員企業社員との交流を図る。(業界活性化)

支部活動に参加する機会の少ない若手社員にも、他社の社員と交流し、情報収集、ビジネスチャンスに繋がるよう、市場・技術・総務各ワーキンググループ合同の交流懇親会として開催し、さらに学生に組込みシステム業界及び協会を知ってもらう機会とする。

14. 第1回技術セミナー

技術本部の活動を紹介する。(組込みシステムの技術開発及び標準化の推進)

技術本部の成果発表会を行い、近畿支部会員企業に活動を紹介する。また技術本部のメンバーと支部会員の交流を図るため、終了後に懇親会を実施する。

15. 11月支部会議

支部事業計画に基づいた具体案を検討する。

11月に開催し、各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。会議終了後に会員月例会を実施し、会員企業の事業内容や新製品の紹介を行う。

16. 忘年会

1年間の支部活動を振り返り、会員の交流を図る。(会員企業間の交流)

11月の支部会議終了後、忘年会を行う。

17. KISA賀詞交歓会

1月初旬～中旬に大阪科学技術センターに於いて、近畿情報システム産業協議会に加盟する7団体の主催で、新春IT振興フォーラム並びに賀詞交歓会を開催し、他団体の会員及び地域の行政、諸団体メンバーと交流する。

18. 第2回技術セミナー

技術担当社員の情報収集、技術啓発。(組込みシステムの技術開発及び標準化の推進)

組込みシステムに関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬及び交通費を負担し、企業内ではできない研修の場を提供する。

19. 第2回総務交流フォーラム

総務・管理担当社員の人財育成。(人財育成)

各方面から講師を招聘して、討論を交えたセミナーを開催し、総務・管理担当社員のスキルアップ、情報収集に役立てる。終了後は講師も交えて懇親会を行い、会員の交流を図る。

20. 2月支部会議

2月に開催し、各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。会議終了後に近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会を実施し、局の施策についての解説、意見交換を行う。

21. 国内視察

国内の視察研修を行い、視察地における組込みシステム技術の調査、地域の経済情勢を視察し、会員に提供する。また他支部との交流を図り、組込みシステム技術の啓発に寄与する。年1回開催。(地域振興及び国際交流の推進)

22. 企画活動

他団体(近畿情報システム産業協議会、組込みシステム産業振興機構、関西文化学術研究都市推進機構等)の活動に参加し、交流を図る。(業界活性化)

九州支部

本部事業のET2016、地区関連団体との協賛・支援、セミナーを通じて、組込みシステム技術の普及・向上、ビジネス機会の拡大、地区関連団体との交流及び地域連携を推進し、支部会員を増やす。

1. 支部会議

支部事業について報告及び検討・調整を行う。支部会議後に懇親会を行い、会員の情報交換・交流を図る。

【実施時期】年4回実施

【開催予定月】4月、7月、10月、1月

2. ET2016事業

組込みシステム技術の普及・高度化、ビジネス機会拡大を図る。

【開催予定】

ET-WEST2016:7月

ETロボコン2016 九州北地区大会:9月

ET2016(ETロボコン2016 チャンピオンシップ大会):11月

3. 地区関連団体との協賛・支援

九州地区の主に組込み関連団体の活動を協賛・支援し、組込みシステム技術の普及・向上、ビジネス機会拡大を図る。

4. 協業セミナー

九州地区的ビジネス活性化、JASA周知

本部協業推進委員会と連携して講師を招き、九州地区でのビジネス活性化への知見を得る。協業セミナー後に懇親会を開催し、参加企業との情報交換・交流を図る。

IV. 平成 28 年度収支予算

自 平成 28 年 4 月 1 日
至#平成 5< 年 6 月 64 日

収支予算書(正味財産増減計算書ベース)(事業費配賦前)

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

科 目	H28年度予算	H27年度予算	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	(5,000)	(5,000)	(0)
特定資産受取利息	5,000	5,000	0
② 受取入会金	(0)	(0)	(0)
受取入会金	0	0	0
③ 受取会費	(50,200,000)	(49,860,000)	(340,000)
正会員受取会費	45,000,000	44,660,000	340,000
賛助会員受取会費	5,200,000	5,200,000	0
④ 事業収益	(171,738,541)	(175,641,071)	(△ 3,902,530)
普及啓発等事業収益	126,312,000	124,600,000	1,712,000
その他事業収益	45,426,541	51,041,071	△ 5,614,530
⑤ 受取補助金	(0)	(0)	(0)
受取地方公共団体助成金	0	0	0
受取民間助成金			0
⑥ 雑収益	(410,705)	(295,000)	(115,705)
受取利息	400,000	280,000	120,000
雑収入	10,705	15,000	△ 4,295
経常収益計	222,354,246	225,801,071	△ 3,446,825
(2) 経常費用			0
① 事業費	(129,868,039)	(116,103,091)	(13,764,948)
役員報酬	0	0	0
給与手当	0	0	0
アルバイト料	0	0	0
出向手当	1,999,944	1,999,944	0
退職給付費用	0	0	0
退職金共済掛け金	0	0	0
福利厚生費	0	0	0
会議費	4,791,685	6,603,852	△ 1,812,167
旅費交通費	14,870,098	10,350,138	4,519,960
通信運搬費	972,103	431,503	540,600
減価償却費	252,000	252,000	0
器具備品費	0	0	0
消耗品費	791,000	241,000	550,000
印刷製本費	3,747,871	2,579,871	1,168,000
賃借料	0	0	0
支払報酬	5,867,538	3,916,880	1,950,658
支払手数料	142,040	103,472	38,568
新聞図書費	379,000	290,000	89,000
水道光熱費	0	0	0
租税公課	0	0	0
会合費	21,762,500	14,065,211	7,697,289
EDP費	0	150,000	△ 150,000
調査委託費	69,889,260	73,137,720	△ 3,248,460
広報費	2,664,000	950,000	1,714,000
保険料	0	0	0
諸会費	930,000	0	930,000
雑費	809,000	1,031,500	△ 222,500

科 目	H28年度予算	H27年度予算	増減
②管理費	(100,614,184)	(95,690,124)	(4,924,060)
役員報酬	14,550,000	22,200,000	△ 7,650,000
給与手当	36,005,000	25,104,000	10,901,000
派遣料	0	4,800,000	△ 4,800,000
アルバイト料	100,000	250,000	△ 150,000
退職給付費用	2,292,700	3,470,000	△ 1,177,300
退職金共済掛け金	720,000	600,000	120,000
福利厚生費	8,492,000	7,313,000	1,179,000
会議費	1,233,700	1,390,000	△ 156,300
旅費交通費	2,659,000	3,500,000	△ 841,000
通信運搬費	1,279,100	1,117,000	162,100
減価償却費	2,113,400	864,637	1,248,763
器具備品費	0	0	0
消耗品費	750,000	884,000	△ 134,000
印刷製本費	1,380,000	1,246,000	134,000
賃借料	11,219,252	7,347,000	3,872,252
支払報酬	5,704,608	3,852,737	1,851,871
支払手数料	203,000	294,404	△ 91,404
新聞図書費	300,000	250,332	49,668
水道光熱費	500,000	498,000	2,000
租税公課	5,400,000	5,400,000	0
会合費	2,000,000	2,600,000	△ 600,000
EDP費	1,849,424	960,000	889,424
広報費	40,000	36,750	3,250
保険料	250,000	242,264	7,736
諸会費	1,220,000	1,220,000	0
貸倒引当金繰入	3,000		3,000
雑費	350,000	250,000	100,000
経常費用計	230,482,223	211,793,215	18,689,008
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,127,977	14,007,856	△ 22,135,833
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,127,977	14,007,856	△ 22,135,833
2. 経常外増減の部			0
(1)経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			0
事務所移転費用	0	3,900,000	△ 3,900,000
固定資産除却損	0	820,104	△ 820,104
経常外費用計	0	4,720,104	△ 4,720,104
当期経常外増減額	0	△ 4,720,104	4,720,104
税引前当期一般正味財産増減額	△ 8,127,977	9,287,752	△ 17,415,729
法人税、住民税及び事業税	10,000,000	11,700,000	△ 1,700,000
当期一般正味財産増減額	△ 18,127,977	△ 2,412,248	△ 15,715,729
一般正味財産期首残高	295,605,198	298,971,619	△ 3,366,421
一般正味財産期末残高	277,477,221	296,559,371	△ 19,082,150
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	277,477,221	297,735,328	△ 20,258,107